2024.02.24　キマイラ読書会　資料

1．ごく簡単な「キマイラ」の理解

現在の「文語短歌」作品といわれる短歌作品は、みんなキマイラ。なぜなら、「口語」と「文語」と両方混じっているから。だから、「文語」とか、「口語」とかの線引きは不要、ということ。

この曲と決めて海岸沿いの道とばす君なり「ホテルカリフォルニア」

捨てるかもしれぬ写真を何枚も撮っている九十九里

「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日

ハンバーガーショップの席を立ち上がるように男を捨ててしまおう

俵万智『サラダ記念日』

・現在は、「文語」短歌は存在しない。全部キマイラ（非文語）

・しかし、「口語」短歌は存在する。非キマイラ（完全口語）

2．ごく簡単な「口語」と「文語」の理解

「文語」は「古語」「書き言葉」

「口語」は「現代語」「話し言葉」

なのか？

言文一致運動の理解

3．「短歌の歴史は口語化の歴史」とはどういうことか

・「短歌の歴史は非文語化の歴史」

・『現代口語歌選』（１９２２年、大正１１年）

さらさらと雨戸にあたる雪の音はある日の二人を思ひ出させた　徳山暁風

酔覚めにさうだとうんと手を伸して大気を吸つてみろ宇宙は広い　池田茂馬

門をくぐるとポッカリ馬糞の暖かい三月花壇のオランダイチゴ　後藤史郎

何とはなしに不平が徐々につのつてくる日理科実験のフラスコが冷たい　秋田としみつ

・文語口語ミックス作品を、「キマイラ」と言ってしまっていいのか？

4.「文語」は時制、「口語」は関係性

・「過去・完了」の助動詞
文語「き・けり・つ・ぬ・たり・り」
口語「た」　文末処理をどうするか

・〈私〉性の拡大
のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ「まっすぐ?」、そうだ、どんどんのぼれ　佐佐木幸綱『金色の獅子』
終バスにふたりは眠る紫の〈降りますランプ〉に取り囲まれて　穂村弘『シンジケート』
雨の県道あるいてゆけばなんでしょうぶちまけられてこれはのり弁　斉藤斎藤『渡辺のわたし』

・モダリティの活用
〈主体〉の判断や態度を表す文法カテゴリー。主に「話し言葉」で、「動詞」などの活用形や「助詞」「助動詞」によって〈主体〉の判断や態度を表している部分を「モダリティ」と呼ぶ。

あの青い電車にもしもぶつかればはね飛ばされたりするんだろうな　永井祐『日本の中でたのしく暮らす』
アメリカのイラク攻撃に賛成です。こころのじゅんびが今、できました　斉藤斎藤『渡辺のわたし』

・モノローグから、対話・会話へ
廃村を告げる活字に桃の皮ふれればにじみゆくばかり　来て　東直子『春原さんのリコーダー』
「酔ってるの?あたしが誰かわかってる?」「ブーフーウーのウーじゃないかな」　穂村弘『シンジケート』
荷車に春のたまねぎ弾みつつ　アメリカを見たいって感じの目だね　加藤治郎『サニー・サイド・アップ』
月を見つけて月いいよねと君が言う　ぼくはこっちだからじゃあまたね　永井祐『日本の中でたのしく暮らす』
理科室のつくえはたしかに黒かった　そうだよ　ふかく日がさしこんだ　宇都宮敦『ピクニック』
非常勤講師のままで結婚もせずに　さうだね、ただのくづだね　田口綾子『かざぐるま』
きょう食べたものを報告し合う友「あずきバーならいいよね」「いいよ」　山川藍『いらっしゃい』
あっ、ビデオになってた、って君の声の短い動画だ、海の　千種創一『砂丘律』
カーテンがふくらむ二次性徴みたい　あ　願えば春は永遠なのか　初谷むい『花は泡、そこにいたって合いたいよ』
レントゲンには写らないものだけど君のたましいそのものだった　岡本真帆『水上バス浅草行き』
多色刷りのポストカードにできそうな厚焼きたまごサンドイッチだ　北山あさひ『ヒューマン・ライツ』

＊桑原憂太郎のBlog「桑原憂太郎雑記録」(hatenablog.com)